

「自分らしくもっと輝くためのヒント～」

日時 平成 29年 (2017年) 1月22日 (日) 午前 10時～

場所 サンライフ甲西

今回は、フォーラムということで、コーディネーターに(株)ICB代表の瀧井智美さんをお招きし、身近で活躍されている女性パネリスト7名の話をお聴きしました。

パネルディスカッションは、パネリストの自己紹介の後に、その話の内容を深めるような形の質疑応答が進められ、最後は「自分らしく輝くために必要なこと」のメッセージが各パネリストから送られました。

コーディネーター：瀧井 智美さん ((株)ICB代表)

営業事務、パソコンインストラクター、キャリアカウンセラー、独立系コンサルタントを経て、「株式会社 ICB」を設立。ワークライフバランス推進支援コンサルタントとしても活躍中。



	<p>奥村 志保美さん 湖南省で女性活躍推進に取り組む企業、(株)シンコーメタリコン勤務。育休から復帰し、総務経理室で従業員をサポートされています。</p>		<p>橋本 枝奈さん 水口消防署勤務。甲賀町に生まれ育ち、大阪の専門学校を卒業後、救急救命士、消防士として地元で活躍されています。</p>
	<p>武村 幸奈さん (株)はたけのみかた代表。湖南省に生まれ育ち、有機野菜を使った離乳食の開発・製造・販売を通し、日本の農業と子育てを支える取組をされています。</p>		<p>石田 夏月さん 石部高校2年生。湖南省役所JK課のメンバーでもあり、好奇心旺盛な性格で、「なんでもやってみよう」と校外活動も活発にされています。</p>
	<p>田中 綾香さん 甲賀警察署警務課勤務。10月に育児休暇から復帰され、3人のお子さんを育てながら、育児短時間勤務制度を利用して活躍されています。</p>	<p>山室 朱音さん 石部高校1年生。看護師をめざし、健康福祉コースで勉強中です。生徒会の副会長としても活躍されています。</p>	
	<p>永坂 茂美さん 湖南省役所健康福祉部理事。市役所で初めての女性部長。制度でなく家族や地域のサポートを受けながら子育ての壁を乗り越えてこられました。</p>	<p style="text-align: center;">パネリストの皆さん</p> 	



◆ほんとうの働きやすさって？◆

(瀧井さん) くだん私がワーク・ライフ・バランスの支援をするなかでよく聞く悩みが「制度は整っているけど非常に取りにくい」「復帰した後にやりがいのある仕事を外されてしまう」といったものがあります。

制度がうまく使えるように職場でされている取組などお聞かせいただけますか。

(奥村さん) 会社も女性の力が必要だと感じてくださっているのかなと思います。責任ある仕事を任せていただいているというのは、私にとっての誇りでもあるし、やりがいにもつながっています。私は採用面接の際に「働き続けたい」という希望を話し、それに対する会社の考え方を聞いて就職を決めました。その会社がどういった女性活躍支援をされているかということを知るといのが、ずっと働き続けるために大切なのではないのでしょうか。

(田中さん) 1人目の出産のときに大先輩の男性警察官が「辞めるなよ、踏ん張れよ」と言ってくださったのを今でも覚えています。そんなふうに言っただけなのは、変わってきているな、うれしいなとありがたく感じています。

(瀧井さん) 会社が女性の力を必要と感じているということは大事ですね。期待を伝えてくださったら、それにこっちも応えようというか、そんな気持ちになりますよね。

(田中さん) 警察という職場も働きやすくなってきています。1人目の出産のときには育児短時間勤務制度を利用している先輩もなく、制度の存在も知りませんでした。2人目・3人目を出産したあとに、その制度を利用して職場復帰しました。

(奥村さん) 私自身は2人目の復帰者なんですけど、復帰して働く先輩がいたから、私も出産しても復帰して仕事をさせていただいていると思います。

(瀧井さん) 育児休暇など制度があっても、使われなかったら本当に意味のないことで、1号が出ることがとても大事ですね。ただ1号が出た後に2号、3号と続くこともすごく大事で、1人で終わっていると「あの人だから取れた」と特別な人扱いになってしまいます。当たり前に見えるという風土を、社内でどう作るかが大事ですね。

(田中さん) 私の利用している育児短時間勤務は、

勤務形態がいくつか選べるのですが、私は9:30~15:10の勤務という形で利用しています。

(瀧井さん) 色んなパターンが用意されているって大事ですね。人によって望むものってそれぞれ違って、サポートしてくれる家族が近くにいるかどうかとか、お子さんの人数だったり、状況だったり。

(田中さん) カバーしてもらっている感謝を忘れず、仕事をしていくことが大切です。次は恩返しのため後輩たちにつなげていきたいなと思います。ためらうことなく出産して復帰できる職場を作っていくことが私の使命かなと思っています。

(奥村さん) 育休から復帰した後「前より元気になった」「強くなった」と言ってもらえます。それってきっと仕事を続けて、人として成長していっている自分があるからだと思います。いまの環境をすごくありがたいと思って、感謝しながら人として成長していきたいです。

(瀧井さん) 制度を気持ちよく使えるのって、その人がまたいっしょに働きたいと思える仲間だからでしょうね。制度を使うだけでなく、感謝を伝えることも大切ですね。

◆自分を支えてくれているもの◆

(瀧井さん) 永坂さんが子育てされていたときには、使える制度がない、コミュニティに支えられたということでしたが、そのあたりを少し教えてください。

(永坂さん) 夫は帰りが遅いので、実家の母や家のお舅さんといっしょに子育てさせていただきました。子どもが少し大きくなると、同級生のおうちなどへ寄せてもらったり、私の知らないところでご近所さんにお世話になっていました。家族や地域などインフォーマルな形で助けてもらいながら子育てしてきました。

(瀧井さん) 近所のつながりや、地域のコミュニティに入っていたり、自分を支えてくれている人やサービスが身近にあるかということ、まず整理するってとても大事だと思います。支えてくれる人やサービスをうまく使っていきながら、自分のやりたいことを続けるということが必要かなと思います。

(永坂さん) 環境というものは少しずつ変化していくもので、自分もそれに対応できるような力を持ち続けたいし、今までの経験を糧にポジティブに考えられる自分でずっといたいですね。

(奥村さん) 私は、出産後も働き続けたいけどどう思う？と夫に相談した時、自分にもできることはするから一緒にがんばっていこうと私の考えを尊重してくれましたので、今ここにこうしていることができます。社員旅行で家を空ける間、夫がしっかり子どもの面倒を見てくれるので、安心して旅行を楽しめます。なかなか感謝の言葉を伝えられませんが。

(田中さん) 子どもや家のことと、仕事を一生懸命したいという気持ちは、究極の天秤ですが、職場、家族に助けてもらいながら、巻き込みながら生活をしていくということが、生き生きと輝けるということなのかなと思っています。

(橋本さん) 甲賀消防では現場に出ている女性消防士は4名しかいません。事故現場や救急の現場で女性の患者さんが「女性がいてくれてよかった」と言っていたときには、この仕事を選んでよかったと思いますし、いまのところは定年まで仕事を続けたいと思っています。

◆不安を乗り越えるために◆

(石田さん) いまちょうど進路について先生や卒業生の先輩などにお話を聴いているところで、働くことに対する不安がすごくあります。もし自分の就職した場所が育休とかが取れなくて一回辞めてしまったら再就職できるのか、とか、なりたいたものになれなくて派遣とかで最低賃金で働くことになった時やりがいを感じられるのか、とか、今からジリジリと不安はあります。でも就職に対する希望やワクワクもあって、その職業について自分のやるべきことを自分で見つけていくことがとても楽しみです。

(山室さん) 将来の夢が看護師なので、健康福祉コースで日々がんばっています。でも理数系が苦手、自分に自信がないので、本当になれるかな、このままめざしていいのかなという不安があります。

(瀧井さん) 武村さんは、起業されてやりたいことをやれる嬉しさもあれば、うまくいかなかったと

きの不安もあるでしょうし、橋本さんは救急救命士という狭き門への不安があったと思います。どう乗り越えたか教えていただけますか。

(武村さん) 私の根底にあるのは、日本の農業のため、子育てのために自分に何かできることはないか、という気持ちなので、例えばこの会社がなくなっても、次に向けて動くことができます。自分がどういう人生を送っていきたいかとか、本当に自分が成し遂げたいことはなんなのかということを考えると別の道も見えてくるんじゃないかと思っています。

(瀧井さん) 色んなやり方がありますよね。根底にある思いを持ちながら、色んな人から話を聴いてみると不安がなくなるかなと思いました。

(橋本さん) 救急救命士は国家資格なので、資格を取るために専門学校に通いました。試験に落ちたらどうしようという不安は、友だちと喋って抱え込まないようにしていました。いまも不安はあります。自分はこの仕事をしてよかったと思うけど、周りはどう思っているかな、とか、役職があがっていったらどうなるのかなとか。でもすべてをひとりでしなければいけないわけではないので、いま自分にできる精一杯をがんばっていきたくらいと思います。

(永坂さん) うちの職場でも管理職が近づくと辞めてしまう大事な人材がいらっちゃって残念だと思っています。自分で決めつけず、相談しながらステップアップしていただければいいのかなと思います。いっしょに仕事をしながら信頼関係をつくるのが一つかなと思います。

(瀧井さん) 不安はあってもいいんですよね。不安を溜め込まないとか、誰かに話すことで気が楽になったりとか、不安とうまく付き合っておられますね。

(山村さん) 姉が看護師なんですけど、今まで話を聴いたことがなかったので、今度聴いてみます。

(石田さん) 不安を消さなくても前に進める方法があるんですね。





◆こんな社会になってほしい◆

(武村さん) 大学のとき、会社を作るって申告したら、すごく大学から怒られて、辛い思いをしました。「さあ、このなかから選べ」って提示されたなかから選ぶのではなく、自分が本当にやりたいこと、大切にしたいことを選択肢をつくり、それをみんなで支えていけるような日本になっていくともっと楽しいんじゃないかと思います。

(石田さん) いろんなことをやらせてもらっていますが、失敗したときに「ゆとり世代はやっぱり緩いんやな」と言われたのはすごい悔しくて…。失敗しても、若い世代の伸びしろというか努力を信じてほしいです。

(山室さん) 私は学童でアルバイトさせていただいているんですけど、両親が共働きということでお迎えが7時という家庭もあります。私自身も小学校のころは学童保育所に通っていて、お迎えが遅いことは当たり前で、正直もっと早く迎えに来てほしい、早くおうちに帰りたいという思いもありました。私が親だったらと考えると、仕事が終わってから家事もしないといけません。そうするとやっぱり仕事の終わる時間は早いといいなと思います。



■プログラム

午前 10 時から 11 時 15 分

第1部 パネルディスカッション

(10分休憩)

午前 11 時 25 分から 11 時 40 分

質疑応答

午前 11 時 40 分から正午

第2部 交流会

